

種子屋久通信

発行：熊毛地域青少年育成推進協議会
住所：西之表市西之表 7590 番地
（熊毛支庁総務企画課内）
TEL：0997-22-0498
FAX：0997-23-1161

《 令和元年度 熊毛地域青少年環境づくり懇談会 》

この懇談会は、青少年を取り巻く環境が大きく変化する中、関係業界、学校、警察、地域、関係機関・団体等が地域の青少年問題及び有害環境について情報交換を行い、相互の連携を深め、一体となった社会環境浄化活動への取組を行うものです。

12月16日（月）、熊毛支庁において「令和元年度熊毛地域青少年環境づくり懇談会」が開催され、業界関係者、学校、関係機関・団体等から19名が出席しました。

種子島警察署安全刑事課関課長代理より「管内の少年非行の概況について」説明をいただき、続いて、県青少年男女共同参画課の井之上主幹兼青少年育成係長による「県内の青少年を取り巻く環境について（青少年保護育成条例の改正等）」の講話、事務局からの立入調査の結果報告がありました。

また、出席者による意見交換では、各団体の自主的な取組が紹介され、ネット関連の事案を防ぐには、青少年の規範意識の教育だけでなく、保護者側が知識をつける必要があるなどの活発な意見が出されました。



令和元年度鹿児島県 PTA 活動研究委嘱公開《西之表市立種子島中学校》



12月7日（土）、西之表市民会館ホールにおいて「鹿児島県 PTA 活動研究委嘱公開」が開催されました。「家族の絆」～「ひとりだち」を支える PTA 活動をテーマにパネルディスカッション形式で種子島中学校の PTA（各専門部）のパネラーより意見発表があり、その発表に対し、他の学校の PTA 会員（会場内）にも参加してもらい、現在取り組んでいる活動の説明や今後の課題等、様々な意見がでていました。研修部の活動として、中学生の時期になると、親子のコミュニケーションが微妙に取りにくくなることから、親と子の素直な気持ちを言葉で表し、親子相互の気持ちを確かめる一手として、冊子『「家族の絆」～親から子へ子から親へ～』を毎年発行しているようです。その中のいくつか生徒・保護者の感想文の紹介があり、会場内がしんと涙している保護者もいました。家族を見つめるよい機会だったと思います。

続いて「睡眠不足とゲーム・スマホから子どもの脳を守る」と題して医療法人増田クリニック院長増田彰則氏の講演がありました。人間の脳の発達や子どもの睡眠の役割、ベストな睡眠時間について、ゲーム・スマホの長時間使用は睡眠不足と成績低下につながることを説明されました。またゲームを50分することによって放出されるドーパミン量は覚醒剤を注射したときのドーパミン量に匹敵することも話されました。



育成活動の紹介



【西之表市】

☆地域塾：ふるさとまなび〜隊 「宿泊体験」

令和元年12月21日(土)～22日(日)に第6回ふるさとまなび〜隊活動(宿泊体験)を実施し、市内の小学3年生から6年生を対象に、23名の子どもたちが参加しました。

野外炊飯活動を計画し、牛乳パックを燃やして作る調理方法で、焼きそばとホットサンドを作りました。コンロを使わずに、簡単に美味しくできあがったことに、子どもたちも驚いていました。

あいにくの雨模様でしたが、施設内のウォークラリーやミニランタン作り、夜にはウインドアンサンブル・ムジーク・クローバーズの皆さんの善意でスペシャルコンサートも行われ、思い出に残る2日間となりました。



野外炊飯の様子



スペシャルコンサートの様子

【中種子町】

☆地域塾：中種子チャレンジキッズ 「お正月の遊びを楽しもう！」

中種子チャレンジキッズでは、「お正月の遊びを楽しもう！」ということで、手作り凧と手作り羽子板作りを行いました。凧揚げでは、ビニール袋を凧の形に切る段階でうまく切れなかったようで苦戦していました。また、羽子板は厚紙を使って手作りしました。時間の都合で凧揚げしか遊ぶことができなかったが、少々風の強い中、オリジナルの凧をそれぞれ思い思いに高く上げていました。昔ながらの伝統的な正月の遊びを、自らの手で作って体感することで、そこに込められた願いや思いを引き継いでいけたらと思います。



真剣にオリジナル凧制作中



皆で凧揚げ楽しいな!!

【南種子町】

☆地域塾：南種子町宇宙科学分団「ウインターキャンプ・納会」

2月8日（土）から2月9日（日）1泊2日で、ウインターキャンプと納会を実施しました。

まず、1年間の活動のまとめを班ごとにおこない、コラージュを制作しました。その後、夕食の準備や五右衛門風呂焚きを団員自らが率先して取りかかり、スムーズにキャンプを終えることができました。

年度当初は緊張した面持ちで接していた団員も、1年間経ってすっかり仲良くなり、自分たちで考えて実践する力が養われているように感じた2日間でした。



堂々と発表しています



皆で協力 五右衛門風呂焚き 煙くても楽しい!!



班ごとにまとめ 真剣
うまく発表できるかな？

【屋久島町】

☆屋久島町子ども会連絡協議会「モデル子ども会事業」～主体的に活動する子ども会活動をめざして～

町子連では、「子どもたちがやりたいことを、自ら企画し、計画を立て、準備する活動」を子ども会リーダー研修会や、指導者・育成者研修会などで推奨しています。

また、毎年2つの単位子ども会をモデル子ども会として指定し、その活動に対し、助成を行っています。このモデル子ども会は、町生涯学習大会や町子連の総会等で、その取組を他の団体に広げ、他の子ども会活動の参考となっています。

話し合い活動 楽しいクリスマス子ども会にしよう。
小瀬田子ども会



活動発表 町子連総会
昨年度のモデル長峰子ども会



☆西之表市立伊関小学校：PTA と連携した健康教室

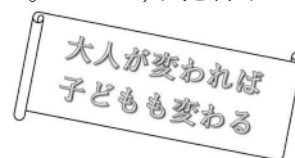
スマホ・ゲーム等については、今後ますます活用の低年齢化が進んでいくと考えられる。便利で楽しい機器の活用の仕方をどのように教えていくか、保護者・地域と学校が連携して取り組んでいく必要がある。SNSに関連するネットトラブルに加え、スマホやゲーム依存等により健康被害も深刻であり、現状を知り今できることを共通実践することが大切であると考えます。

本校では、専門家(NPO法人ネットポリス鹿児島・戸高氏)を講師として招き、「親子で学ぼうケイタイ・スマホの上手な使い方教室」や期間を設けて、親子で取り組む「メディアコントロール&親子読書ウィーク」に取り組んでいる。

- 1 「親子で学ぼうケイタイ・スマホの上手な使い方教室」では、戸高さんから「ネットトラブルとその防止の心得」「携帯・スマホなどの使用により起こりうる健康被害」「メディアによる健康被害を防ぐポイント」についてお話しいただいた。

※子供や保護者の感想

- 【子】間違った使い方(時間・やり過ぎると)脳の病気になることが分かった。こわいし、気を付けたい。
【子】やり過ぎるとしらないうちに頭の病気になる。
【親】親子でルールをつくり時間を守ることから取り組みたい。
【親】与える責任を自覚し、しっかり対応して健康被害から守るように努力しないと思った。



- 2 ノーメディアや就寝 1 時間前のメディアストップなどに挑戦するなど、保護者・子供ともに意識が高まりつつある。

※子供や保護者の感想

- 【子】親子読書は、1 日だけできなかったけどほとんど読めた。本はおもしろいです。
【親】ルールを守れて、いい機会になりました。親子読書も取り組み楽しくできました。
【子】テレビをみないで本をおもしろく感じることができました。
【親】親子でのんびり本を読む時間はいやしの時間になりました。
【親】親子読書のとき子供が楽しそうに聞いているのでもう少し時間を作ってやれるようにしたいと思いました。

令和元年度「かごしま地域塾グレードアップセミナー」開催

2 月 1 日(土)、鹿児島県青少年会館において「令和元年度かごしま地域塾グレードアップセミナー」が開催されました。

開会あいさつ(青少年男女共同参画課平嶺課長)の後、今年度の「優れた地域塾」と認証された 4 団体の認証式が行われました。続いて、かごしま地域塾推進事業について VTR 視聴し、地域塾活動紹介として「永野兵児塾(さつま町)」の活動発表がありました。その後「地域塾活動を継続・発展させるための具体的な取組について」と題して、グ

ループ別に意見交換、報告を行いました。

課題としては地域塾の知名度・認知度が低い、活動規模の縮小・非活性化、自治体の職員と地域塾関係者の連携不足。解決方法としては広報の強化(教育関係者の枠をでて、保護者等にも理解を得る)、地域塾の合併を検討する。地域塾代表者の集まりや、地域塾複数での発表会を開催するなど、他の地域塾の課題も共有でき、今後に繋げるために貴重な意見を聞くことができました。

鹿児島県青少年海外ふれあい事業 ～シンガポール交流コース～

この事業は、「郷土（ふるさと）に学び・育む青少年運動」の実践事業として、本県との関わりの深いシンガポールに鹿児島の青少年を派遣し、交流活動を通じて国際的感覚やふるさとを愛する心の醸成を図り、次代を担う青少年リーダーを育成し、併せて、シンガポールとの友好親善に寄与することを目的に、8月28日（水）～9月4日（水）の日程で実施され、熊毛地区からは、有馬初音さん（種子島中央高校2年）が、県内の青少年9名とともに参加しました。

有馬さんの感想文の一部をご紹介します
シンガポールの文化に触れて

1 はじめに

私は、将来キャビンアテンダントになって、国際線で働きたいと思っています。そのために必要な英語力を高めることはもちろん、観光都市であるシンガポールに行き、観光政策についても学びたいと思い、このプログラムに応募しました。離島からの参加で、海外に行ったこともなかったので不安もありましたが、団員のみんながいつも優しく接してくれすぐに仲良くなれたのでとても嬉しかったです。ここでは、私がシンガポールに行き、学んだことや感じたことを紹介します。

2 宗教の違い

シンガポールが多民族国家だというのは知っていましたが、実際に行ってみると日本では普段目にしないことばかりで衝撃を受けました。

日本では、街を歩いていてもそんなに多くの宗教の信者に会うことはありませんが、シンガポールは多宗教なので、街を歩いているだけで様々な宗教の信者に会いました。今まで教科書でしか見たことがなかったので最初は少し驚きました。日本は普段直接宗教に関わることはないのですが、日本人はめったに見ない宗教の信者に会えると、否定的な感情を持つ人が多いような気がします。シンガポールに住んでいる人は様々な宗教の信者と同じ学校で勉強をしたり普段から共に生活したりしていたので、シンガポールは昔から様々な人がお互いを理解し合いながら共存しているのだということを実際に感じる事が出来ました。



3 様々な人と出会って

このプログラムに参加して、多くの人と繋がれたことがとても嬉しかったです。私はこのような県のプログラムに参加したのが初めてで、他校の人と何かを一緒にする機会がめったに無かったので、わくわくもあつたけどちゃんとやっていけるのか不安もありました。第1回事前研修でみんなと初めて会ったとき、仲良くなれるか心配だったけどみんなが優しく話しかけてくれたおかげで、その日のうちに打ち解けることが出来て良かったです。シンガポールでも、ガイドの方やホストファミリーなどみんなが暖かく受け入れてくださったので、充実した7日間を過ごすことが出来ました。言葉の壁はあつたけど、自分なりに工夫して言いたいことを伝えて英語でコミュニケーションをとれた時はとても嬉しかったです。このプログラムに参加したことでこれからも繋がりを保持していきたいと思える人になくさん出会うことが出来ました。

4 最後に

私は今回このプログラムに参加して、自分が住んでいる種子島をもっと盛り上げたいと思うようになりました。種子島は、ロケットや安納芋など全国的にも有名な建物・食べ物などがたくさんあります。しかし、年々島の人口が減ってきています。シンガポールが人を引き付ける魅力をたくさん持っているように、種子島にももっと他方にアピールできるポイントがあるのではないかと思います。種子島はロケットの打ち上げが行われる際、日本だけではなく海外からも多くの観光客が訪れるので、その時に海外の人ともコミュニケーションをうまくとり、私が種子島の魅力を少しでも紹介できればいいなと思いました。観光客に種子島の魅力を発信していくことで、移住者や観光客もさらに増えもっと活性化と思うので、私が出来たことを少しずつしていきたいです。



鹿児島・岐阜青少年ふれあい事業

この事業は、鹿児島・岐阜両県の青少年が相互交流活動を通じて、両県の深い歴史のかかわり合いを学ぶ中で、お互いの夢を語り合い、友情の絆を深めるとともに、異なる自然や生活、文化等を探訪し、豊かな感性やたくましい創造力を養うことにより、郷土に根ざした青少年活動の活性化を図り、もって、将来の鹿児島を担うたくましい青少年の育成に寄与することを目的に、今年も7月26日(金)～7月29日(月)3泊4日の日程で実施されました。

熊毛地区からは昨年に続き村添心愛さん(種子島高校3年生)が、県内の青少年19名とともに参加しました。

村添さんの感想文をご紹介します 運命の悪戯

私は、「全員と友達になる」という目標を2年間変わらず立てていた。1年目は、少年と交流を深めることはできたが、青年とは多く話すことができなかったため、2年目である今年は、昨年とは違い青年ともたくさん交流しようと意気込んでいた。振り返ると、昨年よりも多くの時間、青年と交流していたことを実感するが、一方で一度も話していない少年がいることにも後から気が付いた。昨年とは逆のパターンになってしまい、目標を達成できなかった事を悔しく思うが、今回はひとまずこれでよしにしたいと思う。とても楽しく、充実した4日間だったから。

この4日間の中で、自分が何も知らずにこの事業に参加していた事を痛感した。そもそも、ふれあい事業のきっかけとなった治水事業のことも知った気になっていたが、いざ説明しろと言われたらできなかったし、セントレア空港へ向かう飛行機の中で横の2人が輪中の話をしている時も輪中が何か知らなくて、なにか日本にいる獣の話でもしているのかと見当違いな事を考えていた。きっと、治水事業

や岐阜県をもっと知っていたら違う角度で物事が見られたのだろう。これからも、双方の県の歴史について調べていきたい。

姉妹県ふれあい事業1日目、セントレア空港に到着し1年越しの再会と新たな出会いに胸が躍った。2日目、飛騨牛をたらふく食べて、世界遺産である白川郷へ向かった。3日目、長良川で食べた鮎はふわふわで美味しくて、夜の鵜飼は最高に楽しかった。4日目、岐阜城で織田信長になりきり天下を取った気分を味わい、明らかに対象年齢を超えている迷路で遊び、セントレア空港を後にした。

2年間で、コミュニケーション能力の向上はもちろん、新たな経験や大切な出会いを手に入れた。初めは、どこにあるかも知らなかった岐阜県が今ではもう大好きだ。青年になって一回りか二回り成長した姿でまたこの事業に参加したい。そこで待ち受けている新たな出会いがとても楽しみだ。みんなに出会えたことは運命の悪戯なのかもしれない。

最後に、この事業に関わってくれた全ての人に感謝を伝えたい。素晴らしい機会を設けていただき、ありがとうございました。



春の「郷土に学び・育む青少年運動」

令和2年3月11日(水)～4月10日(金)強化月間

毎月第3土曜日は「青少年育成の日」です。
(青少年は、未来の社会を創造する原動力です。)



毎月第3日曜日は「家庭の日」です。
(家庭は、子どもの人格形成の基盤です。)